

中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	水上 雅晴		
NAME	MIZUKAMI Masaharu		

1. 研究課題

（和文）漢籍の受容に関する研究—引用と校勘に着目して

（英文）Acceptance of the Chinese classics : focusing on quotation and collation

2. 研究期間

2019・2020・2021 年度 ※2021 年度は新型コロナウイルス感染症特例対応により 1 年間延長

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）

国内にある漢籍や準漢籍そのものではなく、記録や文書類に引かれている漢籍テキストを調査し、調査を通して得られた情報をもとに、日本における漢籍の受容状況に考察を加えた。調査の主たる対象となったのは、年号関係の史料である。日本の年号は、平安時代以降、「改元定」と呼ばれる朝廷内の諮問会議と儀式を通して決められた。「改元定」に先立って、文章博士家に属する家から選ばれた官人に対して年号案を提出するようにとの勅命がくだり、年号勘者に任命された官人は、漢籍に典拠を持つ年号案を記した年号勘文をいくつか提出した。平均で五年半の改元のたびに提出された年号勘文には、その時々には伝わっていた漢籍を使った漢籍の引文が記されるから、年号勘文は国内における漢籍受容とその変化の状況をたどるための第一級の史料と考えることができる。

研究期間を通して得られた主要な成果は、いずれも単著論文である以下の一件である。

- ・「《詩経》與日本年號」張文朝編『中日詩經學之比較研究』（中央研究院中国文哲研究所、2021 年）論文の中では、年号勘文の引文に見える『詩経』（注釈を含む）のテキストと朝廷内の会議において加えられた検討に着目して議論を進め、従来、光が当たることがほとんどなかった角度から、年号史料に引かれる漢籍テキストが持つ学術的価値および文章博士家の学問レベルを含め、日本の中世における漢学受容の状況の一端を明らかにすることができた。

（英文）

In this research, I surveyed the historical documents of Japanese government concerning the era names, which contain the texts of the Chinese classics. Through the survey and examination, new findings were acquired about the condition of acceptance of the Chinese classics in Japan and the academic level of the Japanese literati with regard to the study of the Chinese classics in medieval times.